

今回の取組みに感謝します。私たち新社会党も「大阪・関西万博」、「IR・カジノ」の問題点を指摘して反対運動してきました。今回のアンケート結果を府民の皆様が参考に賢明な判断と投票されることを期待しています。

以下、アンケートへの回答です。

1、南海トラフ大地震と「夢洲」での「万博」「IR・カジノ」の安全性について

もともと夢洲は大阪湾の浚渫土、建設残土、一般ごみなどの処分場として整備された経過があります。「夢洲」とネーミングされたものの、ごみの島です。

当然に危険な物質が大量に埋め立てられており、この上に構造物など想定されていないものであり、ご指摘の通り浸水、護岸のもろさ、津波の危険性があり、想定されている南海トラフ大地震が起きればひとたまりもありません。

すべての開発計画は白紙に戻し、当初のごみ処分場として安全性の確保を図るべきです。

2、大阪スマートシティ計画について

全国で31もの自治体においてスマートシティが計画され、VRCGソフト、開発環境の提供、システム・技術サービス、デジタルシティ、デジタル田園都市などの構想が語られています。

大阪府・大阪市スーパーシティ構想が「健康といのち」をテーマに、2つのグリーンフィールドで3つのプロジェクトを展開と大阪副市長名によりネットで紹介されています。

大阪・関西万博、うめきた2期の開発の概要、さらに、移動、物流、医療、健康、まちづくりなど各分野にわたっての先端的サービスが紹介されています。

この大阪スーパーシティ協議会は大阪府・大阪市が事務局を担い、関西経済連合会、大阪商工会議所、関西経済同友会で構成されています。また日本国際博覧会協会、うめきた2期開発JV代表企業・三菱地所株式会社が推進しているものであり

ます。

具体的な先端的サービスとして移動、物流等として「空飛ぶクルマ」が紹介されていますが、万博の目玉と言われたもののすでに頓挫しています。

果たしてどれだけの実現性があるのか不透明ですし、バス等の自動運転も安全性など不安がよぎります。

いずれにしても単なる企業利益追求が中心に置かれ、それを維新が後押しし、府民が望む安定した府民生活は背後に追いやられる構図に変わりはないと思われます。

3、大阪・関西万博について

会場設備にかかる費用は公費ですが、これが倍加し、運営費も赤字は必至でありすべて府民、国民負担になります。経済効果も維新知事は当初6兆円以上とほらを吹いていましたが、今や話題にもなりません。

メタンスガスなどの有毒ガスに加え、殺人アリといわれるヒアリだけでなく、開催後もユスリカ、レジオネラ属菌の大量発生とごみの島・夢洲開催がいかにとんでもなかったかが日に日に明らかになっています。

学校の自主的判断を無視し、本来の校外学習とは程遠い万博に児童生徒の強制動員に、限られたアクセスで混雑する引率の危険、日陰もない中での熱中症が心配されます。

命輝くといいながら、ジェノサイドと世界から非難を浴びているイスラエルの参加など美辞麗句にすぎません。

結局は松井元知事が新聞で語っていたように「IR・カジノのためのインフラ整備を公共事業として万博でやりたかった」のが真相で、それ以上でもそれ以下でもありません。

4、IR・カジノについて

万博で「IR・カジノ」のためのインフラ整備をしているわけで、ご指摘の通り用地取得に係る鑑定評価は不自然そのもの、カジノ関係業者への便宜供与そのものです。

本来ギャンブルは刑法で禁止されている賭博であり、行政府が推進することなどありえない話です。現在でもギャンブル依存症が本人だけでなく、家族を苦しめ

ている中で、依存症を増やすカジノ開催はあってはならないと考えています。
ともに反対していきましょう。

5、国際港湾物流拠点・「夢洲」の重要性について

国際港湾物流拠点から IR・カジノを最優先する「夢洲」の活用に反対です。ご指摘のように「夢洲」の地理的条件を生かしつつも、その制約もあり IR・カジノを最優先はありえない話だと思います。

夢洲にはシギやチドリ類、ツクシガモなどのたくさんの水鳥たちの生息が確認されており、現在のや鳥類を含む現在の自然環境は保全されなければなりません。これ以上の開発には反対です。

6、「国際観光都市・大阪」構想について

国際観光都市としては、多文化共生が行政関係者、観光産業関係者、そして府民にとっても当たり前になっていることが必要です。当然他民族に対する差別、排外、ヘイトは許されません。

その上で府民の納得、了解を得ながら、ゆとりを持って堅実に国内外から愛される観光都市・大阪を目指し、そのために観光資源を保全し整備をすべきと考えます。